

## 木戸口 夏海さん（平成26年卒）

### クラリネット奏者

#### ◇仕事の概要を教えてください

クラリネット奏者（フリー）です。岩手フィルハーモニーオーケストラに所属し定期演奏会や学校等への訪問演奏等を行う他、様々な理由でホールまで足を運べない方々を対象に、小中学校や地域のコミュニティの場などにお出かけして本物のクラシック音楽をお届けするアウトリーチも行っています。

コロナ禍で暫く活動が途絶えてましたが、9月から再開しており、12月5日にさくらホールにて「木戸口夏海クラリネットリサイタル」を開催予定です。

また指導活動として、高校では専北の他、一関学院、盛岡第三高、その他、中学校等にも教えに行くとともに、音楽の森ヴァース（奥州市）、自宅にて個人レッスン、グループレッスンも実施しています。

なお、自身の技術レベルをキープするために、毎日の基礎練習（多い日は6時間）を欠かせません。



#### ◇仕事を通じどんなことに喜びを感じますか

演奏会に向け半年以上の準備期間を設け自分を追い込んで練習をしているので、その分、来場された方々が演奏を聴いて涙したり、拍手や感謝の声援を頂くことが何より嬉しいですね。

また、去年の冬に初めてのリサイタルを行う予定でしたが、コロナの影響で中止となり、以降、発表の場がなかったので、今年9月にやっとコンサートが出来た時は喜びもひとしおでした。

指導者としては、生徒達から演奏技術を中心に様々な悩みの相談がありますが、思いを聞き出しアドバイスを行い、悩みを解消した生徒の晴れやかな表情を見るのが嬉しいですね。

#### ◇将来の夢を教えてください

自分は東京から北上に戻って来て間もないので、まずは北上のより多くの人達に自分の演奏を聴いて頂き、音楽の力で笑顔になって頂きたいです。

また、舞台の上で演奏するだけの奏者では来場者との間に壁があると感じています。

コンサートに足を運べない人もいれば、まだ音楽を知らない子供たちもいます。今、自分が演奏活動を出来るのは様々な方々の多くの支えがあるからこそのものだと思っていますので、恩返しの意味を込め、街の皆さんの傍に行き、対話しながら、演奏も聞いて頂く、そんな身近な存在としてのプロ奏者になりたいと考えています。

#### ◇専大北上高校ではどんな高校生活を過ごされましたか

専北に進学したのは、小学生の頃から専北の吹奏楽部（当時の部員は120名ほど）の迫力ある演奏に憧れていたからなので、3年間は吹奏楽部の練習・活動にがむしゃらに取り組みました。

結果、在校中は、東北大会や全国大会の常連として多くの成果を残すことが出来ました。

また、専北入学直前に大震災が発生し、プロ奏者が被災地を慰問演奏し人々を笑顔にする様子を見て、自分もプロ奏者になって多くの方々に笑顔を届けたい、そのために実力で高校内でトップに立ちたい、との強い思いを持ち、国立音楽大学を目指し練習に没頭していました。

## ◇専北生に伝えたいメッセージは何ですか

高校3年間は、大人になるための準備期間です。部活動に熱心に取り組むのか取り組まないのか、就職するのか進学するのか等、選択の連続であり、何事も適当にやっていると良い選択は出来ないし、良い結果を出すことは出来ません。

せっかく夢を持っていても自分の可能性を信じる事が出来ず、夢にきちんと向き合うのを避けてはいないでしょうか。自分の可能性を信じ、目標を明確にして夢を追い求めて頑張ってください。

また、誰かのために役に立ちたい、頑張ってみよう、との思いを持って欲しいですね。

自分の高校・大学時代を振り返ると、専北で練習に没頭し音大に入学出来ましたが、入学時点では、自分は同級生の中で下位層に位置していました。

プロの演奏家になりたい。でも実力を身に付けないとプロの演奏家として生きていけない、そう思い毎日10時間以上の練習に励んだ結果、1年後にはトップ層に上がることが出来ました。

これはもう自身の努力しかない、そうしなければ道は切り開けない、と感じた経験でした。

\*\*\*\*\*

## ☆取材後記

震災後の慰問演奏会での住民の笑顔や涙を見て音楽の力の凄さを痛感し、プロの演奏家を夢見て、見事、夢を実現された木戸口さん。その純粋で一途な思いに頭が下がります。

また、大学進学後、猛練習で下位層からトップ層に上がった経験から「これはもう自身の努力しかない、そうしなければ道は開けない、と感じた」との言葉には頭を殴られた思いがしました。

思うにいけないことが多い人生ですが、上手くいくもいけないも最後は自身の努力次第なんだと感じました。 木戸口さん、益々のご活躍を！（担当：Y）